

JAL愛媛争議団を支える会

ニュース

勝利解決の日まで
たたかう発行：JAL 不当解雇とたかう愛媛争議団を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2私も
応援します

えひめユニオンは今年結成して25年を迎えます。当時結成に消極的だった私が書記長を担っているのだから不思議なものですね。

右傾化した既存労組にどっぷり浸かった運動に抵抗しながら、一方で未組織労働者の受け皿となるユニオン立ち上げにかかる事への不安と責任の重さに躊躇したというのが本音です。結成の決断は正しかったのか。

もちろん正しい運動であることは現在が証明しています。非正規労働者の増大に伴い地域ユニオンの必要性は瞬く間に全国に広がりました。

一人でも入れる、非正規労働者の駆け込み寺のキャッチフレーズは正に労働者の実態を象徴していました。

団結・抵抗・統一
えひめユニオン書記長
栗林 周次

旧態依然の弱小組合と揶揄されながらも、まもなく交渉件数(企業)は100件、裁判闘争は20件、もはや我々の運動を「弱小」とは言わせません。

少数であっても団結し資本に抵抗し共闘して統一することで運動は前進すると確信しています。

昨年、コミュニティユニオン中四国ネット定期大会を愛媛で開催し、JAL闘争団の林さんより「JAL不当解雇撤回闘争」をテーマに講演をいただきました。モノ言う労働者の排除と労働組合の弱体化を狙ったものであることを共通認識に共闘支援することを確認しています。

団結・抵抗・統一のスローガンの下、これからも共に頑張りましょう。

不当解雇から15年目の春。JALという労務優先企業は、現場第一の真っ当な航空運送業に生まれ変われるのだろうか？

昨年は、都労委での斡旋解決を蔑ろにし不調に終わらせたJAL側の争議専任部長の役目は、のらりくらりと解決を引き延ばすことのようだ。「お金で買った」如くの不当判決だけを繰り返すお粗末さ。日本には、微塵も責任がないのに

経営破綻の責任と我慢を押し付けられ解雇された労働者を救う仕組みがない。しかし、破綻させた経営陣は誰一人責任を取らないといふ理不尽さを到底受け入れる訳には行かない。

昨年12月10日に日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。県庁前で毎週金曜日に反原発行動を行っている仲間が（JAL争議の支援者であり人生の先輩でもある）そのお一

人でオスロの授賞式に参加された。長年の不屈の活動に最大の敬意を払い心から労いたい。そのMさんは、「原爆と原発も早く無くさなければならぬ」といつも訴えておられる。3.11福島事故を経験してもなお、日本政府が原発を廃止しないのは核武装したいからだと指摘するジャーナリストもいる。

やし、また、頑張れ！

JAL不当解雇撤回争議団（JHJ）

松山市在住 林 恵美

オスロの授賞式でスピーチをされた田中熙巳さんは、原稿になかった「日本政府は原爆で亡くなつた人たちに償いをしていない」ことを二度繰り返され、日本に蔓延する「受忍論」を批判した。「戦争という非常事態で皆が被害を受けたのだから我慢しなければならない。皆耐えていっているのに声

あげるのはわがままだ」という感情論は、為政者にとつては自分達の責任から目をそらせる、実際に都合のよい理屈だ。

経営破綻させたJALが、自分達の責任を棚に上げ、不当解雇は認めないと声を出し行動している被解雇者だけを特別扱いするわけにいられないこと。同じことを起こさせない重要な防波堤になる。

国が市民国民に押し付ける「受忍論」と、戦後被団協がずっと続けて来た懲罰的賠償を求める運動は、JAL争議と共通している。「受忍」することで、平和は守れない。不当解雇もなくならない。打ち破る闘いを拡げなくては！



2024.10.26 コミュニティ・ユニオン中四国定期大会



2024.12.18 堀之内公園定期宣伝 ↑



2024.12.20 JAL本社包囲行動 ↑→